

2011年度 日韓学術交流委員会報告

副会長／国際学術交流委員会委員長

野口 定久（日本福祉大学）

日本社会福祉学会第59回秋季大会において国際学術シンポジウム（2011年10月9日、淑徳大学千葉キャンパス）は、「日中韓における文化多様性と社会福祉の課題—社会福祉の政策及び実践への応用」をテーマにして、日本・韓国・中国の研究者6名による報告がなされた。今回は、中国社会学会社会福祉専門委員会副理事長2名の参加を得て、日中韓それぞれの社会福祉学会での学術交流が進展し、東アジア社会福祉学会再建への視界が広がった。

2011年度－12年度の4回にわたる日韓社会福祉学会のテーマは、すでに、2011年4月（韓国）：多様性と社会福祉理論体系の再構築、2011年10月（日本）：文化的多様性と社会福祉の課題、2012年4月（韓国）：家族構造の多様性と社会福祉の対応、2012年10月（日本）：多様性と人権、そして社会福祉教育の課題、というテーマで合意されている。

同日、日韓学術交流委員会が開かれ、次の諸点について協議がなされた。①2012年度韓国社会福祉学会春季大会は、4月27日・28日で決定した。開催場所は未定である。総合テーマは、家族構造の多様性と社会福祉の対応。②出版企画について、4回のシンポジウムをとおして発表したテーマと討論の内容をあつめ、2013年に『日韓社会福祉比較研究叢書』（仮題）を日韓両国において出版するという合意を見た。③日中韓社会福祉国際交流の方向に関して、中国社会学会社会福祉専門委員会代表の先生方にオブザーバーとして参加していただき次の事項を確認した。2カ国間の交流及び協定は、それぞれの間のルールで進めること。さらに、当面は、3国間で社会福祉学会（社会福祉専門委員会）の研究交流を進めながら、3カ国間協定に発展させる。

以上をもとに、国際学術交流促進委員会は、これらの協議事項を着実に前進させていく考えである。本年10月20日・21日の第60回大会（関西学院大学）において、さらに日中韓社会福祉学会の交流が進展することを期待する。